

船舶事故等調査報告書

平成27年10月22日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014広第166号
事故等種類	衝突
発生日時	平成26年8月4日 23時55分ごろ
発生場所	愛媛県上島町弓削島西方沖 弓削港一文字防波堤南灯台から真方位179°850m付近 (概位 北緯34°15.04′ 東経133°11.95′)
事故等調査の経過	平成26年9月5日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 漁船 孝栄丸、3.45トン HS3-29762（漁船登録番号）、個人所有 第270-13550号（船舶検査済票の番号） B プレジャーボート シーマン、5トン未満（長さ6.15m） 273-4637広島、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 B 船長B、二級小型船舶操縦士
死傷者等	なし
損傷	A 船首部に擦過傷 B 船尾部外板に亀裂を伴う凹損
事故等の経過	A船は、船長Aほか1人が乗り組み、船長Aが操船に当たり、弓削瀬戸を北進中、平成26年8月4日23時55分ごろ、船長Aが衝撃を感じて周囲を見ると、左舷側前方にB船を認め、A船がB船と衝突したことに気付いた。 B船は、船長Bが1人で乗り組み、弓削大橋南方沖で、錨泊中を示す白色全周灯を表示し、船首を北方に向けて錨泊していた。 船長Bは、船首部キャビン内で就寝していたところ、衝撃を感じて目覚め、B船の船尾部とA船の船首部とが衝突したことに気付いた。 船長Bは、キャビンから出て、明かりをつけてB船の損傷状況を確認したところ、浸水していたのでA船にえい航を依頼し、船首で揚錨していたところ、B船の船尾部が水没し始めて船尾側へ傾斜した際、バランスを崩して落水した。 船長Bは、停船してB船の状況を見守っていたA船に救助された。 弓削島で釣りをしていた人が、本事故の発生に気付いて消防署に通報し、消防署から海上保安庁に本事故の発生が連絡された。 B船は、A船により愛媛県上島町弓削港へえい航された。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北東、風力 2、視界 良好

	海象：潮汐 上げ潮の初期
その他の事項	<p>本事故発生場所付近は、弓削瀬戸の南部にあたり、弓削島と上島町佐島間の水路幅が約300mの水道であった。</p> <p>船長Aは、本事故発生場所付近で夜間に錨泊している船を見掛けたことがなかったので、錨泊船はいないものと思っていた。</p> <p>船長Aは、本事故後にB船の白色全周灯が点灯していることを認め、弓削島の明かりに紛れて同灯火に気付かなかったかもしれないと思った。</p> <p>B船は、船首から錨を1つ投入し、錨索を約20m延出して錨泊していた。</p> <p>船長Bは、翌朝早くから釣りをを行うため、錨泊して船中泊をしていた。</p> <p>船長Bは、B船が弓削島の陸岸から近い場所で錨泊しているため、付近を航行する船は少なく、もし航行する船がいたとしても、錨泊しているB船を避けてくれるものと思っていた。</p> <p>船長Bは、本事故後、思っていたよりも弓削瀬戸の中央部付近で錨泊していたと感じた。</p> <p>船長Bは救命胴衣を着用していなかった。</p>
分析	<p>乗組員等の関与 A あり、B あり</p> <p>船体・機関等の関与 A なし、B なし</p> <p>気象・海象等の関与 A なし、B なし</p> <p>判明した事項の解析</p> <p>A船は、弓削瀬戸を北進中、船長Aが、弓削瀬戸の南部付近に錨泊船はいないものと思い、前方の見張りを適切に行っていなかったことから、錨泊しているB船の白色全周灯に気付かず航行し、B船と衝突したものと考えられる。</p> <p>船長Aは、弓削瀬戸の南部付近で夜間に錨泊している船を見掛けたことがなかったことから、錨泊船はいないものと思ったものと考えられる。</p> <p>B船は、弓削瀬戸で錨泊中、船長Bが、錨泊場所をよく確認しないで同瀬戸の中央部付近で錨泊していたことから、A船と衝突したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、弓削瀬戸において、A船が北進中、B船が錨泊中、船長Aが、弓削瀬戸の南部付近に錨泊船はいないものと思い、前方の見張りを適切に行っていなかったため、錨泊しているB船の白色全周灯に気付かず航行し、また、船長Bが、錨泊場所をよく確認しないで同瀬戸の中央部付近で錨泊していたため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p>

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・前方の見張りを適切に行うこと。・狭い水道では、錨泊を避けること。 |
|--|--|